

氏名	三 村 宏 二
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 9 号
学位授与の日付	昭和37年12月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	<b>Histoplasma capsulatum</b> に関する研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 稲臣 成一

#### 学 位 論 文 内 容 要 旨

岡山地方の一部検屍の肺組織から分離された真菌, *Histoplasma capsulatum* Okayama—56 (Yamato) (以下 H. cap. 0—56と略) は本邦分離菌の第一例であり, その諸性状から異型と目されたが, その諸性状を実験動物学的に検討することにより, H. cap. が特種条件下で変異したもので異種株でないことを明確にし, H. cap. の諸性状を改めて検討したものと結論した。即ち第1編においては H. cap. 0—56 の純系マウスに対する毒性, 接種方法を変えることによるマウス体内の菌分布と増殖状態を検討, 特にその small form と large form のそれを比較検討し, 第2編では米国系 H. cap. G—1, 456株を対照として, 両株の酵母型発育各期の諸性状, マウスへの静注接種による病理組織学的変化並びに両株の蛋白及び多糖体分屑感作血球凝集反応を比較し, 考察を加えることによって結論を導き得た。

本論文の要旨は次の学会に於て発表した。

第55, 56, 57, 58回日本内科学会  
(33. 5. 3) (34. 4. 6) (35. 4. 3) (36. 7. 2)

第3, 4回日本真菌学会  
(34. 10. 31) (35. 10. 19)

## 論文審査の結果の要旨

三村宏二提出の「Histoplasma capsulatum に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

大和らにより分離培養された Histoplasma capsulatum Okayama—56 (Yamato) (以下 0—56株と略)の毒力その他の動物実験的性状を先ず酵母型の至適発育条件より検討して一定の発育菌を得、次で7系の純系マウスのうち実験条件にかなう系を求めて CF—1系と決定した後、検討し、0—56株は弱毒性ではあるが、病理組織学的には典型的な網内系の増殖性、肉芽性炎を起し、菌形態は分離屍に認めたと同様の Large form を特異的に認めることを明らかにした。次で米国系 Histoplasma capsulatum G—1, 456 (以下 G株と略)を対称として諸性状を検討した。即ち菌形態、培養日数の経過による菌数の減少状態、生菌率、致死率、両株接種マウスの病変、菌形態、感作血球凝集反応、両株の多糖体分層及び蛋白分層の性状(主として血清学的に検討)等につき検討した結果、多少の差異はあるにしても、それらに生ずる差異は文献にみられる米国系株相互にもみられる範囲に入るものであった。その結果、0—56株も Histoplasma Capsulatum の範囲に入るものと断案した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。